**全国盲ろう者団体連絡協議会機関誌**

**第１８号**

**２０１６／０９／１５発行**

**発行**

**全国盲ろう者団体連絡協議会**

**連絡先**

**〒114-0034**

**東京都北区上十条１－５－１－１０４**

**電話兼FAX 03-5993-4396**

**E-mail taikyoku194tyakugan@ip.mirai.ne.jp**

**URL http://www.db-tarzan.info/jfdb/**

**口座**

**ゆうちょ総合口座**

**記号１２１７０　番号８５８２４０６１**

**名義　全国盲ろう者団体連絡協議会**

**機関誌の無断転載を禁じます。**

**全国盲ろう者団体連絡協議会（以下、「連絡協議会」という）**

**＜目次＞**

**１　ご挨拶**

**２　全国大会の分科会報告  
３　福井盲ろう者友の会設立を祝う会に出席して  
４　連絡協議会の活動報告**

**５　連絡協議会加盟団体**

**６　編集後記**

**１　ご挨拶**

**会長　　高橋　信行**

**初秋の候、貴団体におかれましてはますますご発展のこととお慶び申し上げます。   
　さて、８月に開かれました総会の会長選挙にて、連絡協議会の会長に選出いただき、感謝申し上げます。私にとっては３期目となります。精一杯務めさせて頂きますので、どうぞ、皆様のご協力をよろしくお願いします。  
　早速ですが、連絡協議会の役員を選出させて頂きました。会計、編集、各種委員会など、実務的な役割を担っている委員は、前期に引き続きお願いを致しました。  
　そして今期は、各ブロックを代表して１名を選出するという考え方を改めましたので、役員が数名いるブロックもあれば、一人もいらっしゃらないブロックもあります。  
　さらに、若返りを図るため、若い盲ろう者を、そして、盲ベースとろうベースのバランスを取るためにろうベースの盲ろう者を優先して役員に選んでいます。ただ、ジェンダーバランス(男女の比率)については、どうしても男性の方が多くなってしまっていることについては申し訳なく思っています。  
  
以下に新しい役員体制について記載します。  
役員一同、力を合わせて、日本の盲ろう者福祉の発展のために頑張っていきますので、どうか、皆様、今後ともご協力をよろしくお願いします。  
  
会長　高橋信行（たかはし のぶゆき）  
副会長　大杉勝則（おおすぎ かつのり）  
　　　　藤鹿一之（ふじしか かずゆき）  
事務局長　庵　悟（いおり さとる）　日本障害フォーラム幹事（協会）  
  
委員  
石川　隆（いしかわ たかし）　会計  
関　厚博（せき あつひろ）　機関誌・メルマガ編集係  
渡井秀匡（わたい ひでただ）　編集補助（点訳）  
門川紳一郎（かどかわ しんいちろう）　内閣府障害者政策委員会委員（協会）  
川島朋亮（かわしま ともあき）　聴覚障害者制度改革推進中央本部委員（協会）  
福山佳代（ふくやま かよ）  
小松康弘（こまつ やすひろ）  
  
監事  
川口智子（かわぐち ともこ）  
當山良一（とうやま りょういち）  
  
顧問　福島　智（ふくしま さとし）  
  
  
２　全国大会の分科会報告**

**去る８月１９日から８月２２日まで福岡県北九州市で開催された第２５回全国盲ろう者大会において、連絡協議会が担当した記念式典、分科会、総会について報告いたします。**

**（１）連絡協議会設立１０周年記念式典を開催して  
委員　　福山　佳代  
  
　連絡協議会設立１０周年を迎えるにあたり、全国大会の開会式後、「特別企画」の次に記念式典が執り行われました。  
　記念講演として「盲ろう者福祉における連絡協議会の果たすべき役割」というテーマで福島智氏が話される予定でしたが、福島氏の体調不良により、講演は中止となりました。  
　代わりに福島さんからいただいたメッセージを司会者が代読しました。  
　連絡協議会を作った、兵庫県神戸の故吉田正行さんについての内容でした。この中で「３つをしっかり生きる」の言葉があり、**

**１つ目は・・私たち盲ろう者一人ひとりが自分の人生をしっかり生きるということ。  
２つ目は・・・身近な盲ろう者のためにしっかり生きるということ。  
３つ目・・・全国の盲ろう者のためにしっかり生きるということ。  
　吉田さんが連絡協議会を作った目的は、この〔３つをしっかり生きる〕を実現するためではなかったかと。「みなさん、吉田さんの気持ちを引き継いで、私たち盲ろう者一人ひとりがしっかり生きていきましょう」と参加者の皆さんに伝えられました。  
　そして、全国盲ろう者団体連絡協議会会長の高橋信行氏による挨拶では、「聴覚障害者や視覚障害者の当事者による全国組織は1940年代に既にできていて、彼らは社会に対して自分たちの存在やニーズを訴えることで、強い力を持つようになった。  
　これに対して盲ろう者は長い間、福祉の狭間に置かれてきた。1991年に全国盲ろう者協会が設立された。協会は盲ろう者の当事者団体ではないけれど、盲ろう者福祉の推進に多大な役割を果たしている。そんな中、兵庫の故吉田正行氏の呼びかけで、2006年に連絡協議会が設立された。  
　そして今年、設立10年目を迎えることとなった。連絡協議会はこれからも協会と協力しながら、盲ろう者が生き生きと暮らせる社会に向かって頑張っていきたい。」と話されました。  
　参加者の皆さんには、今後の盲ろう者福祉の推進における連絡協議会と協会とのあり方について、少しでもご理解頂けたことと思います。  
　これからも皆さんで協力し合って頑張っていきましょう。**

**（２）第１分科会について  
会長　　高橋　信行  
  
　第１分科会は、「今後の全国大会のあり方を考える」をテーマに、８月２０日（土）の９時から１２時まで開かれました。  
　分科会は以下の３部構成で行われました。  
第１部　「いかに全国大会が盲ろう者にとって大事か」  
　全国大会が盲ろう者にとっていかに大事かということについて、司会者から参加者に対して意見を求めたところ、次のような発言がありました。  
・全国大会は、１年に１回、仲間に会える大切な機会である。  
・同じ盲ろうという障害を持つ仲間が一生懸命生きている姿を見て、自分も頑張ろうという気持ちになる。  
・盲ろう者として力強く生き生きと生きていくためにこの全国大会の果たす役割は大きい。  
  
第２部　「なぜ全国大会を続けていくことが難しくなっているか」  
司会者から全国盲ろう者協会の山下事務局長に質問をする形式をとりました。  
全国大会を続けていくことが難しくなっている理由について山下事務局長から以下のような説明がありました。  
  
参加者が1000人近くまで増加したことにより、  
・会場確保の困難  
・開催費用の負担の増大  
・人的コストの増大  
が問題となっている。特に開催費用に関しては、参加者の支払う参加費ではとうてい足りず、補助金なども充てているが、更に協会が500万円といった金額を補充している。  
　特に、会場設営費、通訳介助謝金などに経費がかかっている。これらの問題が協会にとって大きな負担となっている。  
  
第３部　「では我々はどうしていけば良いか」  
全国大会の開催が困難になっている理由を踏まえた上で、我々のとるべき行動について、参加者から次のような意見がありました。  
・参加費を値上げすればよい  
(所得の低い盲ろう者が参加できるように参加費を上げるべきではないとする意見もあった。)  
・２年に1度とか４年に1度の開催とすれば良い。  
(会場からは反対意見が強かった。また、山下事務局長からも運営上の困難性が示された。)  
・通訳介助謝金は参加者の派遣事業から支払うこととし、協会からは支払わないこととすればよい。  
・会場として、大学の講堂を使うなどして、会場費を節約すればよい。  
  
最後に高橋の考えを述べさせていただきます。  
　全国大会を開催することが困難になっている理由は、参加者増加に伴う協会の負担過重です。  
　今後、全国大会を継続して開催できるようにするためには、協会に対してさらに負担を求めるのではなく、参加者一人ひとりが、その責任を分担して、主体的な参加ができるようになることが求められていると言えるでしょう。  
　大事な全国大会を守るために、どうしていくべきかを皆さんで一緒に考えましょう。**

**（３）第４分科会　「盲ろう者の生の声を聞く２」  
副会長　　藤鹿　一之  
  
　この分科会では盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業（以下、派遣事業）について意見交換をしました。  
　今回は厚生労働省（以下、厚労省)からお二人の方が分科会に参加して下さり、盲ろう者から意見を出して、それに対して、回答して頂く方法で進めました。  
　今回、話し合われた主な内容は以下の通りです。  
  
１．盲ろう者が利用しやすい派遣事業にするために  
　現在の派遣事業は「地域生活支援」の一環として行なわれています。  
　しかし、地域生活支援事業では、予算の関係等、これ以上、事業の拡大をすることは難しい状態です。  
　そこで、平成３０年度から盲ろう者が利用しやすい派遣事業にするため、新しい制度作りを目指しています。  
　具体的には、現在の地域生活支援事業による通訳・介助員派遣事業は継続したままで、可能な地域から、同行援護事業の枠組みを活用した新しい派遣事業を始め、派遣事業全体の拡大・充実を目指します。  
　  
２．同行援護事業を利用する際、自家用車の使用は認められるか？  
　数名の参加盲ろう者より、「同行援護事業を利用する際、通訳・介助員の業務中の自家用車の使用を認めて欲しい」という要望が出ました。  
　これに対して、厚労省の方より、「通訳・介助業務を行ないながら自動車を運転することは、現在の制度では、安全運転の義務違反になるので報酬の対象としては認められない」との回答がありました。  
　現行の同行援護事業では、従事者の業務中の自家用車使用はできますが、報酬の対象にはなっていません。しかし、交通が不便な地域に住んでいたり、病気等により自力歩行が困難な盲ろう者は、万一の事故が発生した場合の補償の整備等も含めて通訳・介助員による自家用車使用が業務の対象として認められることを強く望みます。  
　  
３．派遣利用時間について  
　多くの盲ろう者から、  
　「派遣利用時間数が少ない」  
　「１日の利用時間数の制限を設けないで欲しい」等と、派遣利用時間について要望が出ました。  
　この大きな問題を解決させるためにも、派遣事業の仕組みを変える必要があります。  
  
４．個別給付に移行した場合、利用料が発生するのでは？  
　参加盲ろう者より、  
「個別給付に移行した場合、利用料がかかるため、経済的な理由で派遣事業を利用しにくくなる盲ろう者が出てくるのでは？」と個別給付への移行について、心配される声が上がりました。  
　これに対し、厚労省からは「所得に応じて利用者負担が発生するが、低所得者は無料である。現在、個別給付サービスを利用している方の９３％は無料でサービスを利用している。」との回答がありました。  
  
５．このような分科会は大切  
　最後に厚労省の方より、  
「このような分科会を開き、意見交換、情報交換をすることはとても大切。これからも続けて欲しい」  
とのまとめのあいさつがありました。  
　今後も「盲ろう者の生の声を聞く」を続けていきましょう。**

**（４）第６回全国盲ろう者団体連絡協議会総会  
事務局長　　庵　悟  
  
　８月２２日（月）９時から１４時５０分まで、西日本総合展示場ＡIМ３階３１１～３１３会議室にて、第６回定期総会が開催されました。全体の参加者は約１０５人、うち盲ろう者３６人。  
　総合司会の今川裕子委員が開会の挨拶を行った後、庵より総会の出席状況について、３５の加盟団体のうち、１９団体の代議員出席と１６団体の委任により総会が無事成立していることを報告しました。  
　続いて、議長選出では、出席代議員の中から、ＮＰＯ法人視聴覚二重障害者福祉センター「すまいる」理事長の門川紳一郎氏が選ばれ、議事が進行されました。  
　第１号議案では、２０１４・２０１５年度の活動報告を川島朋亮委員より、決算報告を石川隆会計の代理で庵事務局長より説明が行われました。そして、監事の代表として代百合子監事から監査報告が行われ、審議の上、採決の結果、賛成多数で承認されました。  
　次に、選挙管理委員の関厚博委員より選挙の方法についての説明が行なわれ、会長立候補者のＮＰＯ法人えひめ盲ろう者友の会理事長の高橋信行氏から所信表明がなされた後、信任投票が行われました。投票方法は、代議員に配られた白紙に信任の場合は〇を、不信任の場合は×を記入し投票するものでした。その結果、出席者１９名のうち、信任１７、不信任１、無効１で、圧倒的多数で高橋氏が会長として承認されました。  
　会長として再任された高橋氏が決意表明を述べた後、第２号議案として、２０１６・２０１７年度活動計画案を高橋会長より、予算案を庵事務局長より説明を行ない、審議の上、賛成多数で承認されました。  
　質疑応答では、主に次のやりとりがありました。  
Ｑ：２年前に「盲ろう」を独自の障害として認定してもらうよう国に要望してほしいと発言したが、どうなったか。  
Ａ：各省庁へ陳情したが結果はわからない。今後、陳情中であること等の経過をまめに報告するようにしたい。  
Ｑ：寄付金の予算の立て方が甘いのではないか。  
Ａ：予算設定が甘かったことは認める。この２年間、赤字を大幅に減らしたことを評価して頂きたい。加盟団体の協力をお願いしたい。  
Ｑ：事務所基金はどうなっているか。  
Ａ：事務所を借りて、事業を展開することを考えていた。現実的には難しいので、事務局長の自宅に事務所を置いている。収入がないため事務所基金としては支出してない。  
　以上で、正午を少しオーバーしたものの、総会は無事終了することができました。  
　昼食後、１３時から１４時５０分までは、会場の参加者が自由に発言できる意見交換会が行われ、藤鹿一之副会長が司会進行を務めました。  
　特にろうベースの盲ろう者への配慮について、次の意見が出され、活発な議論が交わされました。  
・手話を中心としたろうベースの盲ろう者が参加しやすいように配慮してほしい。  
・ろうベースと盲ベースの盲ろう者が同じように参加できるようにしてほしい。  
・連絡協議会が発行している機関誌・メールマガジンをもっとわかりやすくしてほしい。  
・通常版、要約版、手話動画版の３種類があるとよい。  
　また、必要な盲ろう者にパソコン指導者を派遣してほしい、全日本ろうあ連盟・日本盲人会連合と協定を結んで、互いに会員扱いで参加できるようにしてほしい、等の意見も出されました。  
　今後、連絡協議会は、これらの意見を踏まえ、協会や各地の友の会と連携しながら、できるところから実現していきたいと思います。**

**３　福井盲ろう者友の会設立を祝う会に出席して  
委員　　福山　佳代  
  
　去る６月２５日（土）に「福井盲ろう者友の会」が正式に設立されました。  
　福井県の盲ろう者及び支援者のみなさま、誠におめでとうございます！！  
　この日社会福祉法人「光道園」に於いて、設立を祝う会があり、高橋会長代理として福山が出席しました。  
　福井盲ろう者友の会会長青山昭一さんから、  
「交流の場を作っていきたい！」とご挨拶がありました。  
　福井盲ろう者友の会の今後のご発展を心より祈念申し上げます。  
　以下は、青山会長からのメッセージです。  
  
福井盲ろう者友の会の設立にあたって  
福井盲ろう者友の会会長　　青山　昭一  
  
　６月24日に念願の盲ろう者友の会が福井県にも設立されました。  
　自分が施設に入ってから、希望していたことがかなってとてもうれしいです。  
　会員数は、大体盲ろう者が在宅と施設の人を含めて10名くらいになると思います。  
　通訳介助員の人をはじめとした盲ろう者以外の人にも会員に入ってもらいたいと思っています。  
　活動はまだまだ、始まったばかりで難しいことはできません。  
　取りあえずは、９月と11月に交流会を計画して、みんなで楽しくおしゃべりをしたり、温泉に入って美味しいものを食べたりしていこうと考えています。  
  
　この前、全国盲ろう者大会に参加してきました。**

**県外の盲ろう者や通訳介助員と交流をしながら、楽しい時間を過ごしてきました。  
　盲ろう者用の福祉機器や点字機器にも通訳介助員の人と一緒に触れて回りました。  
　いろいろな機械があることを知りました。  
　福井盲ろう者友の会の活動に役立てたいと思って分科会に参加しましたが、内容が難しくて全部は理解することができませんでした.  
　自分がわかる範囲で、活動を頑張りたいと思います。  
  
　それから、もうひとつうれしいことがありました。  
　８月27日から、盲ろう者通訳介助員養成講習会が始まりました。15人の受講生が参加してくれていると聞いています。  
　私も当日会長としてあいさつしました。  
　盲ろう者の通訳介助員が足りないので、この講座をきっかけに少しずつでも盲ろう者を支援してくれる人が増えてほしいです。  
　また、その中から福井盲ろう者友の会の活動を手伝ってくれる人が増えてくれることを願っています。  
　自分もどこまで活動を続けられるか、分からないけれど施設の職員や通訳介助員の皆さんの力を借りながら、これからの盲ろう者友の会が良くなるように頑張って行きたいと思います。**

**４　連絡協議会の活動報告**

**２０１６年２月１６日以降、以下の活動を行いました。  
  
３月２８日（月）  
　一般社団法人ＵＴＭＳ協会へ「交通制約者等の移動支援システムの開発に向けた基本設計」に関する要望書提出（東京）  
３月２９日（火）  
　協会・連絡協議会三役との懇談会（東京）  
４月１５日（金）  
　メールマガジン第２９号発行  
５月２３日（月）  
　監査会（東京）  
５月２９日（日）  
　第６回定期総会開催案内発送  
５月３１日（火）  
　三役会議（東京）  
６月１５日（水）  
　メールマガジン第３０号発行  
６月２５日（土）  
　福井盲ろう者友の会設立を祝う会に出席（福井）  
７月１０日（日）  
　第２５回全国盲ろう者大会第３回実行委員会出席（福岡）  
８月２日（火）  
　第６回定期総会議案書送付  
８月１９日（金）  
　連絡協議会設立１０周年記念式典（福岡）  
８月２０日（土）  
　役員会（福岡）  
８月２２日（月）  
　第６回定期総会（福岡）  
９月１５日（木）  
　機関誌第１８号発行  
  
※その他、内閣府障害者政策委員会、聴覚障害者制度改革推進中央本部、日本障害フォーラム等の各種会議に、盲ろうの代表として全国盲ろう者協会の名前で出席し、意見書提出等に取り組みました。また、全国盲ろう者体験文コンクールの審査員に役員を派遣しました。**

**５　連絡協議会加盟団体  
　今年度に入り、新たに２団体(大分・鹿児島)が加盟しました。現在、加盟しているのは３５団体です。  
  
札幌盲ろう者福祉協会  
岩手盲ろう者友の会  
山形県盲ろう者友の会  
栃木盲ろう者友の会「ひばり」  
ＮＰＯ法人群馬盲ろう者つるの会  
埼玉盲ろう者友の会  
ＮＰＯ法人千葉盲ろう者友の会  
認定ＮＰＯ法人東京盲ろう者友の会  
神奈川盲ろう者ゆりの会  
新潟盲ろう者友の会  
富山盲ろう者友の会  
石川盲ろう者友の会  
岐阜盲ろう者友の会  
静岡盲ろう者友の会  
愛知盲ろう者友の会  
三重盲ろう者きらりの会  
ＮＰＯ法人しが盲ろう者友の会  
京都盲ろう者ほほえみの会  
ＮＰＯ法人大阪盲ろう者友の会  
ＮＰＯ法人視聴覚二重障害者福祉センター「すまいる」  
ＮＰＯ法人兵庫盲ろう者友の会  
奈良盲ろう者友の会「やまとの輪」  
ＮＰＯ法人和歌山盲ろう者友の会  
岡山盲ろう者友の会  
広島盲ろう者友の会  
山口盲ろう者友の会  
徳島盲ろう者友の会  
香川盲ろう者友の会  
ＮＰＯ法人えひめ盲ろう者友の会  
福岡盲ろう者友の会  
長崎盲ろう者友の会  
熊本盲ろう者夢の会  
大分盲ろう者友の会  
ＮＰＯ法人鹿児島県盲ろう者友の会いぶき  
沖縄盲ろう者友の会**

**６　編集後記**

**編集担当委員　　関　厚博**

**福岡での全国大会が終わり早くも９月に入りました。９月とはいえ、まだしばらくは残暑が続きそうです。８月は台風が多く発生していて各地で被害もありました。先日の台風１０号では、東北や北海道で被害が大きく、死者が出たり、農作物や交通にも大きく影響が出ました。ちなみに、全国大会開催中も台風がきていて、九州は圏外でしたが、関東地方を通過したことで、北九州から羽田への飛行機に欠航が相次ぎました。私も飛行機で帰る予定でしたが、欠航となってしまい、やむなく新幹線で帰りました。**

**全国大会２日目は、私は友の会のコーナーの担当でしたので、第１と第４分科会には、不参加でしたが、終了後に報告がありました。今後の全国大会のあり方や派遣事業の在り方について、話し合われたとのこと。２年後以降の全国大会の行方が気になるところです。確かに運営が厳しい状況ではありますが、年に一度全国の盲ろう者が集まる機会なので、継続して開催されることを期待しています。**

**さて、機関誌１８号はいかがでしたか？いつも機関誌は８月に発行していましたが、今回は全国大会を開催した関係で、機関誌の発行が９月になってしまいました。次回は、１０月にメルマガを発行予定です。**